

特集「超スマート社会に向けた高度交通システムとモバイル通信」の編集にあたって

小花 貞夫^{1,a)}

来るべき超スマート社会 (Society 5.0) では、人々が快適に暮らすことができるように、IoT や AI による交通・情報通信の高知能化が必要である。その実現に向けて、よりスマートな情報通信方式の研究開発・実用化・商用化、実用をいらんだプロトコルの実証実験など、活発な研究開発が進められている。高度交通システム分野では、人工知能による車載システムの高度化技術、車載機器の無線ネットワーク技術、サービス高度化のための高精度位置推定技術・センシング技術、自動運転を目指す試みなどが多数提案されている。また、モバイル通信分野においては、アドホックネットワーク技術、センサネットワーク技術、ウェアラブルデバイスの実用化に向けた研究開発のほか、それらを用いたサービスが提供されはじめており、これらは超スマート社会を実現するために不可欠な分野となっている。

モバイル通信および高度交通システムに関するテーマに関しては、情報処理学会の高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS) 研究会とモバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL) 研究会が中心となり、これまでに毎年 70 件以上の優れた論文が研究会で発表されている。また、1997 年から開催され、毎年 100 件を超える発表のある DICOMO シンポジウムでも、これらの分野に関連する論文が数多く発表されている。ITS と MBL に係る論文を一括掲載することにより、この分野の研究を推進し、その発展に寄与することは情報処理学会として非常に意義深いものである。本特集号は、このような研究推進を目的として、ITS 研究会と MBL 研究会が共同で企画したものである。

この特集号では「積極的なコメントで投稿論文の質を上げ、より多くの論文が採録されるようにしよう」という編集方針のもとに編集委員ならびに査読者の方々にご協力をいただいた。具体的には、1) これがダメだから不採録というような減点法ではなく、これは良いので、これを直してあげれば採録するといった加点法的な考え方に立ってコメントをする、2) けっして甘くするのではなく、一定の質の

論文になるように丁寧にコメント・指導を行う、3) 多少大きな、また多くの修正が必要な場合であっても、できるだけ修正の機会を与える、というものである。

本特集号の編集経緯は、以下のとおりである。

論文募集公開：2016 年 12 月

投稿締切り：2017 年 4 月 11 日

第 1 回特集委員会：2017 年 4 月 14 日

第 2 回特集委員会：2017 年 6 月 20 日

第 3 回特集委員会：2017 年 9 月 15 日

投稿数 16 件 (うち英語論文 3 件) に対して慎重に審議した結果、条件付き採録が 12 件、最終的には 10 件 (うち英語論文 2 件) が採録された。採録率は 62.5% である。採録論文の内訳は、位置推定 3 件、行動分析 2 件、ITS アプリケーション 2 件、車車間通信 1 件、モバイルデータオフローディング 1 件、プライバシー保護 1 件である。

投稿数は予想より少なかったが、類似のテーマでの特集論文の募集と時期が重なっていた影響だと考えられ、今後募集タイミングをずらす等の工夫が必要である。一部の条件付論文には、大幅な修正が行われても採録条件を満たせなかったものもあるが、全体的に採録率は例年よりやや高く、今回の編集方針が若干効果あることを示した。

編集委員会としては、モバイルコンピューティング分野、および高度交通システム分野の多岐にわたる技術の中から、注目されている分野の技術に関して、質の高い論文を採録できたと考えている。ITS/MBL の幅広い分野での投稿があったことから、特集号の目標は達成されており、今後も本特集号を継続していく予定である。

最後に、幹事、編集委員ならびに査読者の方々と、論文を投稿していただいた方々の皆様にお礼を申し上げる。

「超スマート社会に向けた高度交通システムとモバイル通信」特集号編集委員会

- 編集長
小花 貞夫 (電気通信大学)
- 幹事
湯 素華 (電気通信大学)

¹ 電気通信大学大学院情報理工学研究科
Graduate School of Informatics and Engineering, The University of Electro-Communications

a) obana@cs.uec.ac.jp

- 編集委員

重安哲也 (県立広島大学), 木谷友哉 (静岡大学), 柴田直樹 (奈良先端大学院大学), 白石 陽 (公立はこだて未来大学), 梅津高朗 (滋賀大学), 石田繁巳 (九州大学), 澤野弘明 (愛知工業大学), 川井 明 (滋賀大学), 田 学軍 (愛知県立大学), 内山 彰 (大阪大学), 梶 克彦 (愛知工業大学), 渡邊孝文 (KDDI 研究所), 西出 亮 (立命館大学), 中村嘉隆 (公立はこだて未来大学), 前田久美子 (日本アイ・ピー・エム (株)), 奥健太 (龍谷大学), 玉井森彦 (国際電気通信基礎技術研究所), 高橋ひとみ (日本 IBM), 後藤佑介 (岡山大学), 廣井 慧 (名古屋大学)